

大本山永平寺：祠堂殿

祠堂殿は、亡くなった信徒とその親族のために日々の礼拝が行われる殿堂である。1926 年に再建されたこのお堂には、永平寺で法要を受けた人の名前を記した位牌が安置されている。永平寺の僧侶は、人が亡くなってから最長 50 年間、定期的に法要を行う。祠堂殿の内部は舍利殿として知られている。そこには地藏菩薩（文字通りに解釈すると：地球の子宮）の祭壇があり、地球がすべての生命を育む力を有するように、すべての人々の苦しみを無限の思いやりで包み込み、和らげてくださると言われている。

祠堂殿には長さ約 18 メートル、重さ 250 キログラムの木製の大数珠が吊るされている。これは第二次世界大戦後に名古屋の匿名の信徒が、永遠の平和への願いを込めて永平寺に奉納したものである。